

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会議の名称	第6回吉川市総合振興計画審議会	
開催日時	令和3年10月22日(金)	午前・ <input checked="" type="checkbox"/> 午後 6時00分から 午前・ <input checked="" type="checkbox"/> 午後 7時55分まで
開催場所	吉川市役所202・203会議室	
出席委員(者)氏名	加藤克明委員、齋藤詔治委員、小野潔委員、雪田きよみ委員、林美希委員、小林照男委員、岡田早苗委員、田村正夫委員、戸張加代子委員、本間寛隆委員、菊地純松委員、石阪督規委員、高崎康男委員、中島新太郎委員、高橋健太郎委員、石井亮英委員、齋藤和雄委員、木原十三男委員、星座正俊委員、佐藤梨帆委員、	
欠席委員(者)氏名	廣瀬正子委員、宮地さつき委員、飯田勝委員、秋元智子委員、塩崎巧巳委員	
担当課職員職氏名	政策室長 浅水明彦 政策室副室長兼政策室主幹 岡崎久詩 政策室調整幹 野尻宗一 政策室企画担当副主幹 油川誠 政策室企画担当副主幹 相川美佐子 政策室企画担当主任 林希 政策室企画担当主任 平塚雅史 政策室企画担当主事 野口陽子	
会議次第と会議の公開又は非公開の別	[次第] 1 開 会 2 あいさつ 3 議事 (1) 前期基本計画(原案)について 4 その他 5 閉 会 [公開・非公開] 公開	
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)		
傍聴者の数	0名	
会議資料の名称	<<今回資料>> ・ 次第 ・ 第5回総合振興計画審議会での事務局検討事項 ・ 第5回総合振興計画審議会会議録 <<前回資料>> ・ 前期基本計画(原案)に関する意見・質問事項とその回答 [資料1]	

会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	菊地純松委員、高崎康男委員
その他の必要事項	なし
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	<b>1 開会</b> それでは、第6回吉川市総合振興計画審議会を開催させていただきます。
石阪会長	<b>2 会長あいさつ</b> 本日はパブリック・コメントの前に、皆さんからご意見をいただく最後の機会であるため、忌憚なくご議論、ご意見をいただきたい。 前回は第1章から第5章まで事務局から説明をし、皆さんからご意見をいただいたが、再検討事項もあったため、検討結果を含めて再度審議をしていきたい。 また、全体を通して再度ご意見をいただき、この場で修正を加え、妥当ということになれば、パブリック・コメントを実施し、市民の皆さんのご意見をいただくこととなる。本日もご協力をよろしく願いたい。
事務局	<b>3 議事</b> 議事録の署名委員として菊地純松委員、高崎康男委員を選任。傍聴要領に基づき、会議を公開とする。
齋藤(和)委員	<b>(1) 前期基本計画(原案)について</b> 前回に引き続き資料1 15頁NO.69から説明  資料1 No.76で、各節に担当関連部課名を明示した方がよいのではないかと意見をさせていただいたが、政策室が対応するから明記をしないと回答があり、今も同様の説明があったが、はっきり言って納得できない。 5月に配布された、第6次吉川市総合振興計画策定方針では、策定にあたっての基本的な考え方として、「市民の関心を高め、多くの意見を計画に反映できるような積極的な情報提供を行います」と明示されているが、この内容に反しているのではないか。 私自身も自治会活動などにおいて、どこに相談に行けばよいか分からないときは政策室を訪れるが、結局担当課に回される。担当課が多く及ぶのであれば、尚更明示しておく方が望ましいのではないか。それが、積極的な情報提供といえるのでは

	ないか。
石阪会長	それぞれ節の最後に 6 とナンバーを振り、関連部課名を明記するといった意見である。いくつかの事業がある場合には、複数書くことになるが、確かに他の自治体の計画でも記載事例はある。
事務局	<p>策定当初より、部署に拘らず、分かり易い計画をつくろうという考え方で始まっている。その考えに基づき、例として第 1 章、第 1 節でも子育ての取組みを掲げているが、この中でも健康増進課、子育て支援課、保育幼稚園課、障がい福祉課などが関わってくるようになっており、文章ごとまたは文節ごとに担当部署が変わるような所がある。</p> <p>そのため 6 番で設けたとしても、別の部署にご連絡をさせてしまうことも考えられるため、お手間を取らせるかもしれないことから、まずは政策室で対応し、ご案内をさせていただきたいと考えている。また、第 5 次においても、総合振興計画基本計画からお問合せを直接いただくことがなかったこともあり、今回は 6 番の掲示は取りやめさせていただきたい。</p>
斎藤（和）委員	<p>まだ納得できないので発言させていただくが、計画というのは P D C A サイクルがある。誰が、いつ、何をどこまでやるか。誰がはっきりせず変わってしまうとしたら、変わった情報を市民に与えないと全体がおかしくなると思う。</p> <p>第 5 次のレビューをきちんとするにしても、誰が何をいつまでにやるかを記載していないからこうになってしまう。</p>
石阪会長	<p>子育てや子どもの例で捉えると、10 を超える部署が関連してしまうことがある。逆に、ここに 10 並ぶとどこが責任を取るのか不明確になり兼ねない。その点を行政としては、懸念していると思う。例えば政策室がきちんと担うと書いてあると責任の所在が明確になる。</p> <p>各ページにそれを記載するというよりも、発行元と問い合わせ窓口を一本化し、そこから振っていくような活用の仕方を徹底するというところでよろしいか。</p>
斎藤（和）委員	承知した。
石阪会長	<p>ではそのような形でお願いしたい。</p> <p>その他 No. 73、74 の意見について、佐藤委員いかがか。</p>
佐藤委員	<p>「みんなが」といわれると主語が Y o u になり、「みんなで」となると W e になる。</p> <p>「みんなが」の Y o u が主語の場合、これを書いている人と読む人で完全に線引きがなされ、市民は市民でやり、行政は行政でやると聞こえてしまう。</p> <p>反対に「みんなで」の W e が主語になると、市民も行政も一体となってやるというニュアンスが出てくると感じ、意見をさせていただいた。</p>

石阪会長	これは非常に難しい日本語の問題で「が」と「で」の違いで意味が変わってくるといったご指摘である。 No. 74 の中島委員の意見も同様の主旨だと思うがいかがか。
中島委員	「みんなが」という言葉は、第3者がやるような、人ごとのような印象がある。市民一人ひとりがやるという形で「私たちができること」という言葉にした方がよいのではないかと考え意見をさせていただいた。
石阪会長	自分がその中に入っているというニュアンスにしないと、誰かがやってくれるといったイメージにもなってしまうということである。この「が」と「で」の違い、あるいは「私たち」という文言だが、他の方はどのように感じるか。
斎藤（和）委員	同様に「あなたたちは」という押し付けられた印象を受けた。
事務局	読み返してみてご指摘の通りだと思っている。今回2つ案をいただき悩んでいる所であるが、まずは自分ごととして捉えていただくことが重要だと考えている。将来都市像で「みんなのまち」という言葉があるので、「みんなのできること」とさせていきたい。
石阪会長	佐藤委員の案を採用するということであるが、中島委員の意見も同様に、自分が入っているということが分かればということであったがよろしいか。
中島委員	承知した。
石阪会長	では「みんなのできること」と表記を変更していただきたい。 欠席委員からのご意見についても、一部反映した箇所がある。例えば No. 80 は、SDGs のゴールマークを入れるということで対応している。従ってどの項目にもSDGs のゴールマークが入ることになる。
事務局	<b>前回審議会にて事務局検討事項とした内容について説明</b> 資料「第5回総合振興計画審議会での事務局検討事項」に基づき説明
石阪会長	修正を反映した箇所、そのままの箇所があるとの説明であった。 例えば、若者に関する指標は市単独では持っていないということである。若者サポートステーションは地域を跨いで支援しているためデータがなく、難しいということだと思われる。 また、アウトリーチ以外の成果指標については、審議会での提案をある程度反映していただき、ここに表記された調査を採用するとのことである。

	<p>次に、「地域」という言葉については、置き換え可能なものについては修正するとのことであった。 この回答について、星座委員いかがか。</p>
星座委員	<p>シンプルになればよい。</p>
石阪会長	<p>また、自殺死亡率以外の成果指標ということで、「ゲートキーパー養成研修受講者数」を加えたということである。 最後の2つについては環境の視点からのご意見ということだが、本日は秋元委員が欠席のため、別途、事務局から確認をしていただきたい。 以上が前回の意見に対する事務局の回答ということである。</p>
齋藤（詔）委員	<p>No.1 の戸張委員の意見について、前回会議終了後、義務教育終了後ではなく、終了年の若者もしくは終了年次の若者などのように、若干修正していただければと意見したところだがいかがか。</p>
事務局	<p>再度検討させていただいたが、追記することにより長文になり、ストレートに伝わりにくいと判断し、原文のままとさせていただいた。ご提案いただいたことについては感謝申し上げます。</p>
石阪会長	<p>提案について検討した結果ということである。</p>
佐藤委員	<p>No.62 について、「多様性を認め合う社会づくりとジェンダー平等の推進」と大きく変更していただいたが、その中で性自認や性的指向という文言がある。これに該当する SOGI という単語を国連で定めているため、それを記載していただきたい。</p>
石阪会長	<p>本文では、第5章の1節(4)②の箇所か。</p>
佐藤委員	<p>そうである。①と②を大きく変更していただいたが、そこに記載された性自認や性的指向という部分で SOGI という言葉があるため、追記又は注釈を入れていただきたい。</p>
石阪会長	<p>担当部局との調整になると思うが、そういう言葉が国連で使われているということである。</p>
佐藤委員	<p>LGBTQ という言い方がメディアでは一般的だと思うが、その上位互換という認識の言葉で、性的マイノリティにプラスして性的マジョリティの人達も一緒に含んだ表現が SOGI とされている。Sexual Orientation and Gender Identity という言葉の頭文字を取った言葉が SOGI で、日本語に訳すと性自認や性的指向と全く同じように使われているが、性自認や性的指向と言わると、性的マイノリティの人だけではないか、という感覚があり、マジョリティの方も関わる問題とアピールするには SOGI が適切かと感じている。 ただし、あまり馴染みのない言葉でもあるため、注釈を加え</p>

	<p>るなど対応はお任せしたい。</p>
石阪会長	<p>これは事務局で持ち帰って、SOGI という言葉を確認いただくと同時に、どちらの方が適当かを含めて検討していただきたい。</p> <p>一通り意見が出たが、改めて基本計画 1 章から見ていきたい。</p>
石阪会長	<p><b>基本計画第 1 章について説明</b></p>
林委員	<p>第 6 節の「人材の育成・活用」という部分で、「活動の場づくり」のような言葉に修正していただくことは可能か。今この場での回答は難しいかもしれないが、検討していただきたい。</p>
石阪会長	<p>確かに「人材を活用する」という言葉は使うが、行政が市民の皆様を活用すると言うのは難しいと思う。ただ行政用語として「活用」が一般的ということであれば仕方がないが。</p>
事務局	<p>タイトルの「人材の育成・活用」の所とは別に、本編の方では配慮し「人材バンクを周知・活用する」と表現しているが、今一度検討したい。</p>
林委員	<p>回答いただいたように、人材バンクの活用といった手法の活用については問題ないと思う。市民の皆さんに関わってくることであるため、よろしくお願ひしたい。</p>
石阪会長	<p><b>基本計画第 2 章について説明</b></p> <p>(質疑なし)</p> <p><b>※休 憩</b></p>
石阪会長	<p><b>基本計画第 3 章について説明</b></p>
林委員	<p>第 8 節の「誰もが働きやすい環境づくり」の関連計画について、男女共同参画基本計画の記載については検討されたのか。</p> <p>男女共同参画は多くの施策に関連するため、検討の結果敢えて掲載しないと判断されたのかもしれないが、多様性や誰もが働きやすいということであれば関連が深い計画だと思う。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり、第 5 章のパートナーシップ部門に関わる施策については、横断的な取組みが多い。男女共同参画の取組みについても、個別の取組みで第 1 章から第 4 章に関わる部分もあるが、今回は第 5 章の中で掲げさせていただいている。</p>
石阪会長	<p>このワークライフバランスも男女共同参画の主要なテーマの</p>

	<p>一つであるが、後ろの方にまとめたということである。但し、関連しないわけではない。</p>
石阪会長	<p><b>基本計画第4章について説明</b></p>
雪田委員	<p>第5節の施策成果指標、「石綿管布設替えの進捗率」について現状値が77.8%で目標値が88.0%とあるが、目標値の根拠は何か。</p>
事務局	<p>水道課で石綿管の布設替えを計画的に進めているが、この計画の進捗に合わせたものが88%という数字になっており、今までの実績も踏まえた着実な推進ということで掲げさせていただいている。</p>
雪田委員	<p>実績に基づいた数値ということで理解したが、石綿管が上水道に使われていることが、市民にとっては衝撃的である。その目標が88%というのはどうかと思う。</p>
事務局	<p>石綿管については、健康被害が全くないことを国でも示している。ただし、地震の際などは弱い部分になるため、順次布設替えを行っている。手元の資料では毎年2km程度の延長を考慮しており、令和8年度までを計算して88%という目標値を設定している。</p>
雪田委員	<p>地震が起きないのか、水道管の破裂は起きないのかといった不安もある。市の予算や優先順位により対応していくことなどは重々理解しつつも、初めて石綿管が使われていたことを知ったときは、私自身も相当なショックを受けた。市民の気持ちを考えたときに、どうなのかと疑問が残ってしまう。</p>
石阪会長	<p>水道ビジョンなどである程度決まっていることもあり、中々難しい所だと思うが、そういう意見があったということは控えておくことが必要だと考える。</p>
高崎委員	<p>目標値であれば100%にしてほしいところである。また、指標名の所は目標値ではなく5年後の数値とすべきではないか。</p>
石阪会長	<p>これは毎年約2km程度ということで、確実に2kmということではない。それを数値化してここまでは確実にもっていくといったニュアンスだと思う。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおり、各年度の予算の都合もあり2km程度確保しながら、この数値まで持っていきたいという目標である。</p>
石阪会長	<p>そういう意味では現実的な目標であると思う。 最終目標が100%というのもよく分かるが、予算の問題も実は大きく、100%を目指すとなると予算が確保できるのかということにもなる。ここまでの予算は確保したいという判断であると</p>

	考えられる。
石坂会長	<p><b>基本計画第5章について説明</b></p> <p>(質疑なし)</p>
石坂会長	<p><b>重点テーマについて説明</b></p>
雪田委員	<p>重点テーマ1「命を守る」の中の、2-6「生涯を通じた健康づくりの推進」、「新型コロナウイルスや新型インフルエンザなど新たな感染症に対し、市民の命を最優先とした迅速で柔軟な対策対応が可能となるよう取り組むとともに、正しい知識や情報の普及啓発を行います。」という文章について違和感がある。今の時代なので感染症対策という文言が入ること自体は大事だと思うが、「生涯を通じた健康づくりの推進」となったときにどうなのかなと感じてしまう。</p>
石坂会長	<p>喫緊の課題であり、感染症対策をしっかりとやる。これが出てくるのは分かるが、例えば健康増進、維持するための取組みをしていく、行政として様々な支援をするなどを後に入れて欲しいということか。</p>
雪田委員	<p>そうである。「正しい知識や情報の普及啓発」などがそれを指しているかと思うが。</p>
事務局	<p>タイトルについては、第2章第6節のタイトルをそのままとっており、そこの中から重点テーマ「命を守る」に合った取組みをここで紹介する流れになっている。このタイトルと本文だけを見て違和感があるということだと思うが、重点テーマの中で示したテーマに基づいた取組みをピックアップしており、36頁30行目から37頁冒頭にかけての取組みを主な施策ということで掲げたものである。</p>
石坂会長	<p>「生涯を通じた健康づくりの推進」というのは全体のテーマであるが、節全体というわけではなく、その中の特に感染症予防の推進に関わる箇所を重点テーマとして拾ってきたということである。これは今まさに重要な喫緊の課題ということでのよろしいか。</p>
事務局	<p>取組みとしては、現状の大きな課題の一つということで取り上げている。</p>
石坂会長	<p>2-6「生涯を通じた健康づくりの推進」というタイトルを変えることは難しいとの説明である。本来は、ここに感染症対策や新型コロナに対して命を守ることが最優先と表現が入れば違和感はないが、もしこの下に健康づくり等を入れてしまうと、重点テーマではなくなってしまうということである。</p>

雪田委員	意図は分かるがやはり違和感がある。
石阪会長	主旨はご理解いただきたい。 今回皆さんからいただいたご意見は、事務局と調整し、修正すべき点は修正させていただく。修正されたものは私と副会長とで確認し、再調整を行い、一旦パブリック・コメントにかけさせていただくがいかがか。
	(異議なし)
事務局	齋藤和雄委員からの「各節で担当部署を出せないか」というご提案について、休憩中に改めて検討したが、6番で関連部署を全て掲示することはやはり難しいが、関連する個別計画・方針等ということで個別計画を掲げているため、ここに個別計画の担当部署を掲示することは検討させていただきたい。
石阪会長	それで進めていただきたい。
	<b>4 その他</b>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の審議会を踏まえ庁内で検討し、会長、副会長と調整を行った上で、11月18日頃を目安にパブリック・コメントを実施させていただく。</li> <li>・注釈など新しく追加できるものについては、事務局で精査させていただく。</li> <li>・パブリック・コメントの実施にあたり、今回審議会を経て変更された指標の実績値や目標値、暫定値としていた市民意識調査に関わる指標を更新しお示しさせていただく。</li> <li>・修正後の基本計画（原案）については改めて各委員に送付させていただく。</li> <li>・次回審議会は、パブリック・コメント結果を踏まえ、1月下旬頃の開催を予定している。</li> </ul>
	<b>5 閉会</b>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和3年11月15日</p> <p>署名委員 菊地 純松 (自署)      署名委員 高崎 康男 (自署)</p>	